

情報提供日
平成29年5月30日

担当課	担当係	担当者	電話番号・問合せ先
企画課	企画係	藤井充宏	白川町役場 0574-72-1311 内線 (231)

白川町は、県内自治体で初めての音声認識アプリ「UDトーク」を導入。
(町村の導入は東海地方でも初)

●UDトークについて

音声認識アプリ「UDトーク」は東京のShamrock Records (シャムロックレコード) 株式会社が開発したコミュニケーションアプリで、他言語翻訳機能もあるので障がい者バリアフリーのほか言語バリアフリーにも対応している。また最近では漢字かな機能が増えて世代間バリアフリーの配慮も進んでいる。

このアプリは、個人で使う場合ならスマホで簡単にダウンロードして利用できる。

スマホのマイクに向かって話した言葉が、瞬時に画面上で文字に変換されるので、聴覚障害者とのコミュニケーション手段として、手話や筆談以外の方法が確保されることになる。翻訳機能では、日本語の話し言葉が外国語に翻訳されて画面表示されるなど活用場面も拡大している。

●白川町でのUDトーク導入経緯

白川町では、要約筆記サークル「あゆみの会」がグループ内でUDトークアプリを最初に使い始めた。あゆみの会は、障がい者バリアフリーをはじめ多方面で有益であると考え、平成28年6月に一般住民向けに開発者の青木秀仁氏（郡上市出身）を招き、UDトーク講習会を自主開催。この講習会には町長をはじめ町職員も参加し、その有用性を実感することができた。町ではその後、あゆみの会の協力により役場職員向けの講習会を開催するなど、少しずつ理解を深めてきた。

その年の12月、議会でUDトークの導入が認められ、あゆみの会の協力により町の行事（成人式、文化講演会）などでUDトークによる情報保障サービスが始まるなど、歩みの会と役場の各部署との連携が徐々に進んでいる。

町議会3月定例会では、議会がUDトークによる傍聴を認め、聴覚障がい者の方から「ついに議場で議会傍聴できた」と喜んでいただけた。ここまではトライアル期間として無料で利用できた。

平成29年度から法人向けプランに正式加入した。

法人プランは 月額25,920円（税込）

県や市で導入された場合は利用場所数の制限があるそうだが、町村は制限なく、行政機関も教育機関もすべて利用できる。

●利活用の実績

あゆみの会の実績＝白川町での実績となる。（これについては後述）

あゆみの会の活動報告（別紙）のとおり

美濃加茂市でも活動している。

●白川町の特徴

自治体が導入する場合、聴覚障がい者への行政サービス向上を目的に福祉部門から始めることが多い。白川町は、福祉部門もその他の部門でも具体的な活用はできていないのが実状であるが、利用実績は増えている。

町村で全国初の導入と言っても、小さな自治体では職員が利活用の検討・研究など十分対応できないのが実状。それでも白川町で利活用の実績があるのは、「あゆみの会」の存在によるもの。

町では、UDトーク導入と並行して、あゆみの会の機器整備に対し補助金を交付。

整備機器（iPad 3台、iPad mini 1台ほか周辺機器） 補助金 30万円

町が行う行事では、そうした機器も活用している。

白川町は導入にあたり、特定の部局で専門的に利用するより先に、まずはUDトークを多くの人に知ってもらうことを優先することにした。（職員が利活用を検討していると実際の利用開始までに時間が掛かる事も考慮）

幸いにも、UDトークの活用術に長けたあゆみの会があることから、町民が集まるいろいろな場面でUDトークを活用し普及宣伝ができています。

行政と市民活動団体との「協働」のモデル事例と考えている。

●今後について

翻訳機能を活用したインバウンド対策や学校でのインクルーシブ教育での活用を検討していきたい。

UDトークは滑舌が悪かったり方言が混ざったりすると誤変換も増えるが、そういうものであることを多くの人々が理解した上で活用すればよいと考えている。UDトークの音声認識機能はどんどん進化しており変換率も向上中である。

完璧な状態でないと役に立たないとか、行政だから完全でないものは使えないと考えるのではなく、広く普及することで、あいまいさも許容してもらいつつ、行政と町民の協働によるバリアフリーを推進していきたい。町民のアイデアを活用して、UDトークの活用場面を増やしていきたい。

開発者の青木氏は（あゆみの会に対し）「町役場をはじめ公共機関でどこでもUDト

ークが使える、いざって時にみんなが使えるように教えあって活用していく。ここでUDトークを通して一つの「共生モデル」が出来上がっていく可能性を感じている」と語られており、これを実現していきたい。

インクルーシブ教育とは・・・

障がいのある子どもを含むすべての子どもに対して、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を、通常の学級において行う教育のことです。



【画像1】

昨年11月に行われた80歳の町民を祝う聖人式でUDトークを使用。

会場に設置されたスクリーン上に司会者等の話す会話が写る。高齢化が進む白川町では、こうした住民向けサービスも必要に。



【画像2】

昨年、役場職員に向けてUDトークの講習会が行われた。

窓口対応だけでなく、会議の議事録、翻訳機能を活かして外国人への対応など、様々なシーンで活用できる可能性が感じられた。